

小6学習内容

少人数指導の利点を活かし、各科目の重点単元を中心に、個別の弱点補強に取り組みます。習熟の必要な算数に多くの時間を配分し、普段の授業やテストで特に苦手になっているものを集中的に扱うほか、過去の入試問題なども題材に、合否の明暗を分ける問題を数多くこなし、受験に必要な実力を養います。真剣勝負に挑む中学生たちの姿勢も大きな刺激になることでしょう。

		1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	
小6 夏季 特訓 合宿	国語	各70分 ×6 コマ	入試実戦問題 トライアル①	入試実戦問題 トライアル②	入試実戦問題 トライアル③	入試実戦問題 トライアル④	入試実戦問題 トライアル⑤	入試実戦問題 トライアル⑥
	算数 A	各70分 ×4 コマ	消去算 年齢算	つるかめ算 面積図	相当算 仕事算	旅人算 通過算		
	算数 B	各70分 ×4 コマ	差集め算 過不足算	食塩水 売買損益	分配算 ニュートン算	流水算 時計算		
	理科	各70分 ×6 コマ	てこ①	てこ②	滑車①	滑車②	りんじく①	りんじく②
	社会	各70分 ×6 コマ	入試実戦問題 トライアル①	入試実戦問題 トライアル②	入試実戦問題 トライアル③	入試実戦問題 トライアル④	入試実戦問題 トライアル⑤	入試実戦問題 トライアル⑥

※ 上記は昨年の実施例です。夏季講習での進捗や定着度などを考慮してカリキュラムは変更される場合があります。

《国語》

合宿では実際に入試から精選された問題に、**本番の半分の分量・時間**で取り組みます。専用の答案用紙を用意し、毎回得点も記録して、**実戦を強く意識した形式**で臨みます。短めの制限時間の中で「出題者の意図」を正確にとらえ、設問条件（解答形式・字数など）に合った形で解答をまとめる訓練を集中的に重ねます。

入試問題では幅広いテーマの文章が出題され、受験生の思考力・記述力が試されます。その場しのぎで答案を埋めようとするのではなく、普段から様々なことに興味を持ち、読解の手助けともなる知識を養うことが重要であることは言うまでもありません。漢字や熟語、慣用句やことわざなどについても、夏季講習と連動して、専用テキスト『**コンプリーション**』を用いた演習形式で、意味や用法をひとつひとつ確認していきます。

《算数》

一般に入試問題の構成は、基本が40～50%、応用・発展が10～20%、残りの30～50%が基本を組み合わせたテキスト標準レベルの問題です。合格最低点がおおよそ60～65%であることを考えると、基本問題を取りこぼさないことに加え、この標準問題の出来が合否の明暗を分けるといえます。確実に得点を重ねていくためには、**速く正確な計算力と基本一行問題（単位・速さ・比・割合）**への習熟が必須です。

合宿では短期集中学習の特性を活かし、この基本問題の徹底演習を軸に据えます。8時限の授業をAとBに分け、それぞれ「**比と割合**」「**和と差の文章題**」を集中的に扱います。夏季講習カリキュラムと連動し、9月以降の入試問題演習につなげていく実践的な内容です。

《社会》

小6は全範囲の学習が終わっていますので、地理・歴史・公民の3分野にわたって、知識の徹底確認を行います。夏季講習と連動して分野別の**確認テスト**を行うほか、入試問題から精選された**実戦テスト**を本番の半分の分量・時間で連日行います。演習を通じて、混同しがちな紛らわしい語句の区別・整理、地図上での位置の把握、正確な漢字での表記など、得点力に直結する部分を徹底的に鍛えます。「**知っているはずのことなのに、問われ方が少し変わっただけで答えられなかった…**」という経験を重ね、すべて点数化することで**弱点克服への自覚**を促します。意味や関連を説明する記述問題についても扱い、最終夜の『**合宿杯**』でその定着度を測ります。

《理科》

毎年、受験生の多くが苦手とする**計算問題**、中でも多くの学校で出題される「**てこ・滑車・りんじく**」に絞って「力」（物理）分野の克服に重点を置きます。

「力」の問題は示されたいくつかの要素を漏らさずに式をつくり、正しい手順で計算していくことが求められますが、最近の入試問題では難解なものは減少し、**標準的な計算問題の出題が増えています**。「何となくニガテ」なまま勝負を避けることなく、解ける問題を確実に得点にいくことで、ライバルに差をつけることが出来るでしょう。

合宿ではもう一度、イチから手順を確認します。まずは基本問題をミスなく解いていくことから始めましょう。